日本事務局

◆理事会（五十音順）※2020年3月時点

石原 恵	看護師
磯村 尚徳	外交評論家
オスタン・ガエル（理事長）	PMC株式会社代表取締役
大浦 紀彦	形成外科医
佐藤 直	ワープジャパン株式会社代表取締役
瀬古 篤子	株式会社ヴィジョン・エイ代表取締役
ダビッド・パトリック（副理事長）	麻酔科医
寺島 左和子	形成外科医
森川 すいめい	精神科医
山田 信幸	形成外科医
與座 聰	形成外科医

◆事務局（五十音順）※2020年3月時点

安達 洋子	ファンドレイザー（ドナーリレーション）
阿部 さやか	ファンドレイザー（ドナーリレーション）
石井 夕美	総務・経理マネージャー
石川 尚	広報マネージャー／証言活動担当
伊藤 馨恵	マーケティングアシスタント
大川 正祐	プロジェクトコーディネーター（福島事業）
小川 亜紀	プロジェクトコーディネーター（ラオス事業）
荻野 祥子	プロジェクトオフィサー
川口 彩子	プロジェクトコーディネーター（スリランカ事業）
畔柳 奈緒	事務局長（2020年3月退任）
髙木 加代子	事業部資金管理担当
武石 晶子	プロジェクトコーディネーター（ハウジングファースト東京プロジェクト）
冨岡 亜矢子	ファンドレイザー（法人パートナー、イベント担当）
松井 智美	ファンドレイザー（個人支援者担当）
メシニャック・マジョリ	事務局長アシスタント／プロジェクトアシスタント
米良 彰子	事務局長（2020年3月着任）
米田 祐子	支援事業マネージャー

◆パートナー（五十音順・敬称略）

アサヒプリテック㈱／アメリカン・エキスプレス・インターナショナル・インコーポレイテッド／いちよし証券㈱／エア・リキード財団／㈱エイペックスインターナショナル／エーツーケア㈱／エドワーズライフサイエンス㈱／（公財）風に立つライオン基金／㈱グリーティングライフ／サラヤ㈱／（一財）ザ・プラフ・クリニック／（特活）ジャパン・プラットフォーム／住信SBIネット銀行㈱／ソフトバンク㈱／大和ハウス工業㈱／（公財）テルモ生命科学振興財団／日蓮宗あんのん基金／連合愛のカンパ／㈱バリューブックス／BNPパリバ証券㈱／㈱フェリシモ／（公財）前川報恩会／三井住友銀行ボランティア基金／（公財）みらいRITA／ヤフー㈱／ヤンセンファーマ㈱／楽天銀行㈱／㈱リコー／リンベル㈱

※紙面の都合上、金額・継続期間等の基準による抜粋とさせていただきました。
2019年度にご寄付をいただきましたすべての法人・企業の皆さまに対し、改めましてお礼申し上げます。

〈物品サービス〉

エクスコムグローバル㈱／㈱大塚商会／㈱農心ジャパン／Groupe PSA Japan㈱／㈱リコー

〈イベント協力〉

ヴランケン ポメリー ジャパン㈱／㈱エスカーダ・ジャパン／カステルジャパン㈱／クリスチャンディオール㈱／㈱グリーティングライフ／LVMHモエ ヘネシー・ルイ ヴィトン・ジャパン㈱／㈱CROWN／グランドハイアット東京／シャネル(同)／JAVEL／ティビエルジュ・パリ／ツヴィリングJ.A. ヘンケルスジャパン㈱／日本フロス㈱／ネスレネスプレッソ㈱／パークハイアット東京／バカラ パシフィック㈱／ハリウッド化粧品／ピー・エム・シー㈱／ピエール ファーブル デルモ・コスメティック ジャポン㈱／フランス料理文化センター／㈱ペペロンチーノ・グラフィコ

〈プロボノ〉

デロイトトーマツ コンサルティング㈱／ホワイト&ケース法律事務所

世界の医療団（認定NPO法人）

特定非営利活動法人メドゥサン・デュ・モンド ジャポン
Médecins du Monde Japon

〒106-0044 東京都港区東麻布2-6-10 麻布善波ビル2F
Azabu-Zenba Bldg. 2F, 2-6-10 Higashi-Azabu, Minato-ku, Tokyo
106-0044, Japan
Tel: +81-(0)3-3585-6436　Fax: +81-(0)3-3560-8073
E-mail: info@mdm.or.jp

www.mdm.or.jp

世界の医療団

2020年3月発行

2019年度 活動報告書

©David Burnetti

©Kazuo Koishi

©Olivier Papegnies

©Luc Valigny

©Kazuo Koishi

©Gillaume Pinon

©Luc Valigny

©Arnaud Finistre

「誰もが治療を受けられる未来を。」

“POUR UN MONDE OÙ CHACUN PEUT ÊTRE SOIGNÉ.”

世界の医療団の使命は「治療」と「証言」です。

支援者の皆さまへ

「東日本大震災から9年、積み重ねてきた人生がまた…。もう一度、一からやり直さなければいけないのか──」。

2019年10月に日本列島を襲った台風19号の被災者の方の言葉です。世界の医療団日本は、最も大きな被害を受けた場所の一つ、福島県いわき市に入りこころのケア活動を実施しました。スタッフが現地で出会ったこの方は、二度目の大きな災害に見舞われて、避難所に入ることをためらうほど打ちひしがれたそうです。

被災して住む場所を失うということは、生活の基盤を失うだけでなく、それまで築いてきた人間関係や習慣、人生の大切な部分を失うことです。それだけでも耐えがたい苦痛、不安に襲われるはずですが、普段から弱い立場に置かれている人──たとえばひとり親世帯や病気を持った人たちは、より複雑な状況におかれてしまいます。

この状況は、例えばミャンマーから隣国バングラデシュに逃れたロヒンギャの難民キャンプでも、その社会の弱い立場の人たちが抱える課題が顕在化するという構造が共通してみられます。そのような中、今私たちと共に活動を行っているロヒンギャの若者たちのような、現地の志ある、心強いパートナーに巡り合うことで活動は継続し、本当に意味のあるものになります。

台風19号のように、社会的要因に気候変動が重なり、状況がより複雑になることも増えてきました。予測不能な事態に翻弄されるいのちと健康を守るため、私たちは今後も怯むことなく対応して参ります。

改めまして、2019年の活動に対してのご支援に心より御礼を申し上げます。

世界の医療団 日本
理事長　ガエル・オスタン

［活動に関わる医療専門家の声］

スマイル作戦に参加して15年

形成外科医　山田信幸

©Kazuo Koishi

私にとってのスマイル作戦は、自分が笑顔（スマイル）になれる作戦です。ほかの人の笑顔や幸せをみたときに心から喜ぶには、自分が幸せでなければ難しいのではないかと思っています。

私は2005年より、スマイル作戦に参加しており、いつも参加のたびに笑顔にさせてもらっています。私たちを頼って、受診してくれた患者さんが手術を受け、笑顔で帰っていくのをみると、大きな喜びを感じられます。ということは、自分が幸せだということです。この原稿の依頼をうけて、スマイル作戦にかかわる自分の幸せについて改めて考えてみました。

比較的豊かな今の日本で生まれ育った幸せ、医師になるための教育を受けられた幸せ、先輩や後輩、仲間に育ててもらって形成外科医としての技能を身につけられた幸せ、一定期間、診療所を休診することを理解してくれる患者さんやスタッフがいる幸せ、家を留守にする事を理解し、協力してくれる家族がいる幸せ、ともにスマイル作戦に参加する仲間や師がいる幸せ。そして何よりも、スマイル作戦に対して心強く温かい応援をしていただいている多数の支援者がいる幸せです。たくさんの方の応援を受け、後押しされていることを感じられるのは実に幸せなことです。心から感謝しております。

皆さんからの応援を、支援を求めている患者さんたちに医療という形で届け、これからも患者さんの笑顔をみられるよう、私も笑顔で頑張ります。

アフリカ&中東

緊急支援

中東・アフリカ地域では、長引く紛争によって、人々は住む場所を追われています。医療施設も紛争によって破壊されており、世界の医療団はそのような医療施設への支援を行うことで、妊産婦や性暴力被害者など、紛争時に最も弱い立場にさらされる人たちのケアを続けました。さらに、気候変動に伴って巨大化したサイクロンの被害を受けた地域でも、緊急医療支援を行いました。

イエメン

内戦が激化して、5年が過ぎました。国の実権を握る反政府勢力のフーシ派に対し、サウジ主導のアラブ連合軍の爆撃によりインフラが破壊され、国連によれば国民の8割に相当する約2400万人が何らかの人道支援が必要な状態です。医療施設は半分程度しか機能していないとされ、世界の医療団は首都サヌアやイッブなどで医療施設を支援しています。

人間開発指数	(189か国中)177位
5歳未満の乳幼児死亡率	(出生1,000人中)55人
平均寿命	66.1歳
医師、看護師・助産師の数	(国民1万人あたりそれぞれ)3.1人、7.3人

モザンビーク

2019年3月にアフリカ南部を襲ったサイクロンは、時速190キロにも上る猛烈な風と豪雨のために家屋が破壊され、国連によれば一時は200万人近くが人道支援を必要とする状態に陥りました。世界でも最貧国のひとつのモザンビークでは、もとより脆弱な医療施設のインフラが破壊され、緊急で医療チームを派遣して対応に当たりました。同時に支援物資を送り、被災後に確認されたコレラなど感染症対策や、安全な飲み水を配るなどの緊急支援を行いました。

人間開発指数	(189か国中)180位
5歳未満の乳幼児死亡率	(出生1,000人中)72人
平均寿命	60.2歳
医師、看護師・助産師の数	(国民1万人あたりそれぞれ)0.7人、4.4人

©MDMF

©MDMF

長期支援

コンゴ民主共和国

前年の2018年から続くエボラ出血熱の流行は、2019年夏にピークを迎え、WHOが緊急事態宣言を発表しました。そのような中、世界の医療団は感染拡大の中心地である北キブ州の2地域で、感染管理のトレーニングや、現場で奮闘する現地の医療スタッフを対象にした心のケアなどを展開しました。

このほか、首都キンシャサでは性暴力の被害に遭った女性たちのケアに当たりました。性暴力の被害は、心に大きな傷を残すだけでなく、HIVに感染する恐れもあり、適切な医療ケアが常に求められています。

人間開発指数	(189か国中)179位
5歳未満の乳幼児死亡率	(出生1,000人中)91人
平均寿命	60.4歳
医師、看護師・助産師の数	(国民1万人あたりそれぞれ)0.9人、4.7人

コートジボワール

妊産婦10万人あたりの死亡件数645人は、世界でも最も多い部類に入ります。背景には、少女たちの「望まない妊娠」があります。人工妊娠中絶が法律で禁じられているために、違法な妊娠中絶を止むを得ず選んで命を落とす人もいます。このような状況を打開するため、南西部スブレ地区において少女たちや被害者を対象にしたカウンセリングや教育機関や行政関係者への啓発活動などを行っています。

人間開発指数	(189か国中)165位
5歳未満の乳幼児死亡率	(出生1,000人中)89人
平均寿命	57.4歳
医師、看護師・助産師の数	(国民1万人あたりそれぞれ)2.3人、8.5人

ウガンダ

紛争による混乱が続く南スーダンと国境を接している地域に、難民の流入が相次いでいます。世界の医療団は国境付近の北東部ユンベ県において、23万人が暮らす難民居住区で病院の運営を行っています。混乱のさなかに逃げてきた人たちの暮らしにはさまざまな医療ニーズがあり、横行する性暴力被害者のケアも含まれます。病院スタッフ120人が日々、奔走しています。

人間開発指数	(189か国中)159位
5歳未満の乳幼児死亡率	(出生1,000人中)49人
平均寿命	63.0歳
医師、看護師・助産師の数	(国民1万人あたりそれぞれ)0.9人、6.3人

©Luc Valigny

©Sebastien Duijndam

※人間開発指数・平均寿命　Human Development Report 2019 (UNDP)
※5歳未満児死亡率・医師、看護師、助産師の数　World Health Statistics 2019 (WHO)

ロヒンギャ難民

長期化している危機

バングラデシュ南東部のコックスバザールには、隣国ミャンマーで2017年8月に起きた武力衝突をきっかけに、迫害から逃れてきた人たち約90万人（12月末現在、国連調べ）が、難民キャンプで暮らしています。2年が経過し、それなりに整備されているとはいえ、むき出しの土の上に粗末な小屋が果てもなく並ぶ劣悪な環境は変わりません。

このような中、健康を守るカギとなるのは疾病予防や迫害のトラウマ、長期化するキャンプ生活のストレスなどのメンタルケアです。世界の医療団は、難民キャンプで暮らす人々が自身で健康を守るための知識を普及する活動を行っています。手洗いなど基本的な病気予防や応急処置のほか、ジェンダーに基づく暴力（GBV）の知識を広めることで、弱い立場にある女性が被害に遭ってしまうような状況を防いでいます。

活動を共に行う現地パートナーは、難民キャンプに暮らすロヒンギャのボランティアです。10代後半から40代までが、自分たちのコミュニティのために日々、活躍しています。

〈ミャンマー〉

人間開発指数	（189か国中）145位
5歳未満の乳幼児死亡率	（出生1,000人中）49人
平均寿命	66.9歳
医師、看護師・助産師の数	（国民1万人あたりそれぞれ）8.6人、9.8人

ラオス

長期支援（小児医療強化プロジェクト）

北東部フアパン県での5歳未満児の死亡率低下を目指す小児医療強化プロジェクトは、3年目を迎えました。現地では医療施設を利用する習慣が根付いておらず、経済的な理由に加え、医療施設への信頼が高くなく、子どもが病気になったとしても医療施設を使うという動機付けが弱い状態にありました。

このような状況を変えるため、私たちは県・郡病院スタッフを対象に、適切な小児診療について研修を重ねると同時に、県・郡病院スタッフが下位組織であるヘルスセンターのスタッフを研修できる仕組みを整えました。さらに、村民に最も近い村落健康普及員と呼ばれるボランティアに対しては、ヘルスセンターのスタッフが研修を行うことで、どのような場合に、どのタイミングでヘルスセンターを頼るべきなのか、村民が理解できるようになりました。また、研修とそのフィードバックを地域の医療施設関係者の間で継続的に循環させることができるようになりました。

人間開発指数	（189か国中）140位
5歳未満の乳幼児死亡率	（出生1,000人中）63人
平均寿命	67.6歳
医師、看護師・助産師の数	（国民1万人あたりそれぞれ）5.0人、9.8人

★本プロジェクトの一部は「日本NGO連携無償資金協力」の助成を受けて実施しました

スマイル作戦

（ミャンマー、バングラデシュ）

形成外科手術プロジェクト

世界の医療団が初めて、カンボジアでスマイル作戦を実施してから、30年を迎えました。多くのご支援に支えられ、これまで20か国でのべ17,000人以上を治療してきました。日本からは與座聰医師が1996年、大虐殺の傷跡が生々しいルワンダでのミッションに参加して以来、数々のボランティア医師や看護師が参加してきました。また同時に、技術移転も進めています。

スマイル作戦が対象とするのは主に、口唇口蓋裂や大やけどのために起きた皮膚の拘縮などです。日本では当然のように治療が行われていますが、途上国では医療資源が限られているため、いのちに直接関わらない疾患・疾病は優先度が低くなってしまうのが実情です。しかし、見た目に大きく影響するため、その人が社会生活を送っていく上では大きな支障があります。いじめや差別の対象になってしまうケースも少なくありません。手術を終え、おそるおそる鏡を手にした患者さんの顔に笑顔が戻る時、ボランティアの疲れは吹き飛びます。

◆ミャンマー
【回数】2回
【期間】6月1日～8日
　　12月7日～14日
【手術件数】53件
【派遣ボランティア】のべ9人

◆バングラデシュ
【回数】1回
【期間】3月9日～16日
【手術件数】30件
【派遣ボランティア】のべ12人

〈ミャンマー〉

人間開発指数	（189か国中）145位
5歳未満の乳幼児死亡率	（出生1,000人中）49人
平均寿命	66.9歳
医師、看護師・助産師の数	（国民1万人あたりそれぞれ）8.6人、9.8人

〈バングラデシュ〉

人間開発指数	（189か国中）135位
5歳未満の乳幼児死亡率	（出生1,000人中）32人
平均寿命	72.3歳
医師、看護師・助産師の数	（国民1万人あたりそれぞれ）5.3人、3.1人

※人間開発指数・平均寿命　Human Development Report 2019 (UNDP)
※5歳未満児死亡率・医師、看護師、助産師の数　World Health Statistics 2019 (WHO)

スリランカ

長期支援

世界の医療団 日本による新しいプロジェクトとして、茶農園住民を対象にした医療支援を実施しました。特に、性と生殖に関する健康（SRH）と保健向上のための取り組みで、茶農園住民がその権利を行使できることを目標としています。

スリランカは世界有数の紅茶の産地ですが、茶農園の生活環境は植民地時代の風習が色濃く残り、同国全体の水準と比べても低い状態です。さらに、女性や子どもの栄養失調率や妊産婦死亡率は、同国平均の2倍以上に上ります。また、茶農園の厳しい労働環境は、アルコールや薬物依存、性に基づく暴力の遠因ともなっています。

プロジェクトでは、同じ目的のもと3年にわたって活動してきた世界の医療団フランスから引き継ぎ、その成果を土台に展開しました。現地パートナーとともに、男性や若者も対象に含めた啓発活動を実施しました。政府関係者や選挙の立候補者を対象にした提言活動や住民対象の啓発活動などを行い、のべ約2400人が参加しました。

人間開発指数	（189か国中）71位
5歳未満の乳幼児死亡率	（出生1,000人中）9人
平均寿命	76.8歳
医師、看護師・助産師の数	（国民1万人あたりそれぞれ）9.6人、21.2人

日本

ハウジングファースト東京プロジェクト

「ハウジングファースト」とは、ホームレス状態にある方の支援において、住まいの確保を第一に掲げる考え方のことです。屋根があって安心できる場所を得ることは、人間としての尊厳を保つ上で最も重要なことだからです。世界の医療団が2010年から実施してきた「東京プロジェクト」は、2016年からは「ハウジングファースト東京プロジェクト」（HFTP）と名称を改めて、同様の目標を掲げる7団体（2019年時点）と協働しています。支援が必要な方にたどり着くためのアウトリーチ活動や医療支援のほか、行政関係者の理解を深めるためのアドボカシー活動などを行っています。プロジェクトで借り上げている短期滞在型のシェルターから、アパートを本人名義で契約して暮らせるようになるためには、行政や地域の理解がさらに必要だと考えています。2019年にハウジングファースト型支援を利用してアパートで暮らし始めた方は20人を数えました。

福島こころのケアプロジェクト

2011年に起きた東日本大震災と、それに伴う東京電力福島第一原子力発電所の事故の影響は、時間の経過とともにその形を変え、今なお続いています。一定の時間が経過してから発生するトラウマに苦しむ人や、移転に伴い生活基盤が全く変わってしまった人など様々で、より多層的な支援が必要になっています。

世界の医療団は2019年も引き続き、こころのケア活動を展開し、現地の精神科保健医療福祉の基盤を回復させるための支援を続けています。対象地域は相馬市、南相馬市、浪江町、飯館村、川内村、富岡町、いわき市で、地域に根ざしたパートナー団体と協働して精神科医や看護師、臨床心理士などを派遣しています。また、川内村では支援対象を村役場の職員としています。通常業務と復興支援業務が重なり、職員の負担が過重となっている状態で、「支援する側の支援」も重要だと感じています。

緊急支援（台風19号・福島県いわき市）

突然襲ってくる自然災害は、人々のこころに大きな影響を与えます。2019年10月に発生した台風19号は日本各地に大きな爪痕を残しました。いわき市では8人が亡くなり、約7,000世帯が暮らす住宅が被害を受けました。
大きな災害時には、精神面のケアは手薄になりがちです。住宅やインフラが破壊されるため、その復旧がまず優先されるためです。世界の医療団は看護師5名と臨床心理士2名をいわき市に派遣し、被災者の方々を対象にしたこころのケアをのべ750時間にわたって行いました（2020年1月まで）。

市内4か所の避難所での健康相談と並行して、自宅に残っている人たちが支援情報などから孤立しないようにと、訪問活動も行いました。その上で、特に大きなニーズを抱えた方は行政や福祉など、適切なサービスにつなげました。避難された方々の中には、原発事故で避難を余儀なくされた上、更に今回の水害という２つの被害を経験した方もおり、大きな不安を抱いている方々のこころに寄り添いました。

★本プロジェクトの一部は「ジャパン・プラットフォーム」の助成を受けて実施しました

人間開発指数	（189か国中）19位
5歳未満の乳幼児死亡率	（出生1,000人中）3人
平均寿命	84.5歳
医師、看護師・助産師の数	（国民1万人あたりそれぞれ）24.1人、115.2人

※人間開発指数・平均寿命　Human Development Report 2019 (UNDP)
※5歳未満児死亡率・医師、看護師、助産師の数　World Health Statistics 2019 (WHO)

証言活動

支援の現場で私たちが直面する現実を一人でも多くの方々に知って頂く、社会を変える原点として、世界の医療団が使命の一つとして大切にしている活動です。2019年も引き続き、現場からの発信活動に重点を置きました。また、世界的なネットワークを持ち、医療に特化した世界の医療団だからこそできる、「しなければならない」証言活動を模索しました。

自然災害

日本でも世界でも自然災害が多発した2019年。世界の医療団は、支援現場に入る団体だからこそできる、マスメディアでは伝えきれない証言活動を展開しました。サイクロン被災地のモザンビークからは世界の医療団スペインのコーディネーターを日本のラジオへ生出演させ、また世界保健デー（毎年4月7日）に寄せて感染症を防ぐ取り組みを報告しました。10月の令和元年台風で甚大な被災を受けたいわき市での支援活動では、現場からの動画レポートに力を入れ、その時その場で起きている情報を伝えました。他の被災地と比べ見過ごされていたいわき市での被災の状況、被災者の生活、生活再建の難しさ、水害被害との闘いを訴えました。

女性

ノーベル平和賞を受賞したナディア・ムラドさん（2019年受賞）やマララ・ユスフザイさん（2014年受賞）など、これまでは声をあげたくても上げられなかった女性たちが主張し、国際社会からの支援と称賛を得ています。表舞台で脚光を浴びることはないけれど、過去に被害を受けながらも、自らの場所で懸命に今を生きる女性たちに焦点を当てたキャンペーン「UNSUNG HEROES」（名もなき英雄たち）を「国際女性デー」（3月8日）に合わせ実施しました。9か国で100名以上の女性たちが写真家デニ・ルーブル氏のレンズの前に立ち、半生と決意を語ります。日本においても公式サイトなどでの公開を始め、様々な形で女性の権利を訴える国際啓発キャンペーンに参加しました。

紛争・難民

紛争や自然災害などからやむなく故郷を離れた人々は、現在、世界中で7000万人以上と言われています（国連発表、2018年6月）。国内避難民、難民の生活は劣悪で、健康に生きるはずの権利を奪われ続けています。世界の医療団では2019年も難民への医療支援と並行した証言・提言活動を行いました。シリアでは長期化する紛争暴力に対し、人道支援の確保を訴えるため15の団体と共同声明を発表しました。大規模流入から2年の8月、隣国バングラデシュに身を寄せるロヒンギャ難民たちとともに彼らの声を直接伝える8分の動画を発表しました。

国際シンポジウム「ハームリダクション」

「ハームリダクション」は1980年代に欧州で生まれた公衆衛生施策としての依存症へのアプローチです。個人およびコミュニティの健康被害を軽減することに主眼に置き、その起因となりうる行為自体が、たとえ違法であったとしても、その是非を問わないことを特徴としています。世界の医療団では、フランスを始め、各地で活動を展開し、知見を培ってきました。このアプローチがいまだ普及していない日本において2019年、国内外の専門家を招聘して「日本におけるハームリダクションを考える」機会をと、国際シンポジウムを開催しました。難しい、新しい概念にも関わらず、当日は約200名の来場者が参加、日本での議論と実施に向けての足掛かりとなった一日となりました。

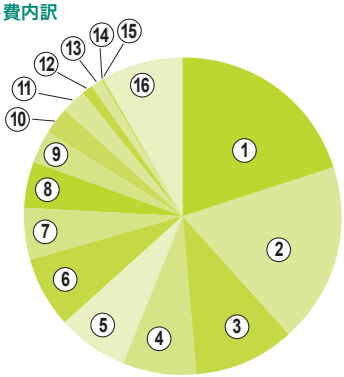
2019年度決算

世界の医療団は、1名の監事による会計及び業務の内部監査と、外部の独立した公認会計士による会計監査を毎年度受けています。

収入（単位：日本円）	271,652,782
寄付	164,571,397
助成金	105,744,326
収益事業	816,250
謝礼 ほか	295,809
会費	225,000

支出（単位：日本円）	243,843,886
プロジェクト費（医療支援+証言活動）	194,133,997
募金事業	45,344,583
商標権使用料等事業	816,250
管理費	3,549,056

◎プロジェクト費内訳



①ラオス / 小児医療強化プロジェクト	20.1%
②ロヒンギャ緊急医療支援プロジェクト	18.3%
③イエメン / 緊急医療支援プロジェクト	10.4%
④東日本大震災被災地支援プロジェクト	7.5%
⑤ハウジングファースト東京プロジェクト	7.3%
⑥スリランカ / 茶農園における性と生殖の健康を守るプロジェクト	7.1%
⑦ウガンダ / 南スーダン難民緊急医療支援	5.2%
⑧スマイル作戦	4.7%
⑨シリア / 緊急医療支援プロジェクト	3.3%
⑩コンゴ / 性と生殖の健康を守るプロジェクト	2.8%
⑪コートジボワール / 性と生殖の健康を守るプロジェクト	2.5%
⑫福島県いわき市水害被災地緊急医療支援	1.2%
⑬レバノン / シリア難民母子保健プロジェクト	1.1%
⑭モザンビーク / サイクロン被災地緊急医療支援	0.3%
⑮ニジェール / 母子保健プロジェクト	0.1%
⑯証言活動＊	8.1%

＊ニュースレター発行、MdMの活動紹介イベント、写真展など開催、NGOイベントへの参加等

世界の医療団は「認定NPO法人」として東京都より認定されています。
世界の医療団へのご寄付は税制上の優遇措置を受けることができます。

アドボカシー

■2019年3月
冊子「福島こころのケア実践と教訓」を発行

■2019年11月
高桑郁子看護師監修「被災後の身体とこころのケア」チラシを制作